

新川神社
社報

鷹乃羽

平成二十一年十二月十日発行
発行所 新川神社社務所
編集者 榎 官 船木信孝

ご挨拶

新川神社 宮司 船木信光

常日頃より神社祭礼、護持運営に際しまして暖かいご理解とご協力を賜り誠に有り難うございます。

さて、新川神社の歴史は元和元年（一六一五年）の洪水で社殿浸水により翌年（一六一六年）に現在の新庄町に鎮座されてより平成二十八年（二〇一六年）には新庄に移転鎮座四百年の大きな佳節を迎えようとしています。平成十八年より宮総代会にて記念事業を慎重審議いただいているところでございます。具体的な奉祝事業の概要につきましては、皆様にお伝えできるときが参りましたらお謀り申し上げる所存でございます。

また、本年、全国の神社を統括する神社本廳の「神社振興対策教化モデル神社」として新川神社が指定され、神社を振興する手本を示すような活動をし、周辺の地域の神社にも良い影響を与えていただきたいと、認定をされたところでございます。



その一環として神社の広報誌であります社報「鷹乃羽」を発刊する運びとなりました。新川神社の御紋は「違い鷹の羽」ですので神社を象徴する広報誌として名付けさせていただきました。最初と申うことで拙き誌面ではありますが神様と皆様の橋渡しが出来ればと思えます。今後ともご愛読賜りますようお願い申し上げます。発刊に際してのご挨拶とさせていただきます。

庭療の集い開催 八月二十六日(水)

今年、富山県神社庁の主催で、県内の若手神職さん達にご協力いただき、また各町内会より多くの参加者を集めていただきました。開催致しました。小学生他（五十三名）にあんどん作りや火きり体験・ビデオ上映・ゲーム・雅楽鑑賞を通して、夏のひとときを楽しく過ごしました。今回の夕食カレーライスのお米は新庄第四町内の上坂健治様より奉納いただきました。おいしくてみんなおかわりをしていました。ありがとうございました。



右・あんどん作りは意外にむづかしい。左・うまく火おこしが出来ました。



下・みんなで、いただきます



県内神社境内・社務所視察 訪問総代研修会実施

十月三日(土) 仏滅

午後一時三十分～七時三十分頃
船木宮司以下十六名参加

来る鎮座四百年祭記念事業の境内整備事業の視察の為、稲荷町の越中稲荷神社と高岡市金屋町近くの有磯正八幡宮の二社を訪問、正式参拝をいたしました。式年大祭、参集殿建築を経験された宮司さんたちからお話しを聞き、記念事業の奉賛会の進め方や募金方法、神社運営のあり方、境内整備上留意した方がよいことなど伺い、今後の参考にすると共に、神社総代会運営の向上をはかることを目的として実施いたしました。



越中稲荷神社 宮司 山田方輝

まさてる

稲荷神社の山田宮司様は、当初参集殿建築に対して一部の氏子住民の反対意見もあったが、各氏子町内会に役員と共に説明会を開き、なんとか理解してもらったとの苦勞談をお伺いしました。また、参集殿の建築場所や仕様も二三転したが、最後には神懸かりの様な導きや、寄進などのご縁に恵まれ、参集殿と共に参拝者控え室も建築できたこととお話しされました。また、毎年総代研修旅行を行い、各地の神社の視察をされていくに従い、自然と参集殿建築の雰囲気醸し出されたことや、定期的に事業を計画して氏子の皆さんに寄附をしていただく事によって、お宮に対して親しみや愛着が湧いてこられるので、奉賛事業は物心共に神様と人とを繋ぐ上でも重要であると述べられました。



有磯正八幡宮 宮司 上田正宙

まさひろ



歓迎尊影が多い棟方志功には珍しい八幡神の板画



再びバスに乗り込み、移動すること五十分、有磯正八幡宮に到着、まずは正式参拝を致しました。

上田宮司様は大学生の頃に父親である先代宮司に亡くなられて以来、若いながらも式年大祭、参集殿の建築を経験された方です。



高岡銅器の金屋町にあつて、その社殿や御輿は立派な物でありました。有磯正八幡宮は各町内の過去の奉賛者名簿が芳名簿になっており、それに従って奉賛金の割り当てをして奉賛活動の基盤としていることをご説明されました。

また、参集殿建築の際の反省事項として女子便所を別室に作っておかなかったたので、今現在、利用者には不便な思いをさせているとお話しされました。

また、正月の初詣に際して、お守りや守護矢などを授与するスペースを作らなかつたのでこれも反省していると話しされました。神社の参集殿はその性格上、いつもは使わなくとも、たった一日とはいえ、大人数が集う場所であるので、そのことを想定して設計しなければ、いざというときに大勢の方々に大変不便をかけてしまう事を失敗談としてお教えいただきました。

高岡を後にして新庄に帰還後、社務所にて直会として懇親会と共に意見交換を致し、散会いたしました。